出島が描かれていない長崎の絵図を探して

2019.10．17　長崎楽会講演要旨　　大井昇

１．現在知られている最も古い長崎の絵図は長崎歴史文化博物館蔵の「寛永長崎港図」で1634 年から 1636 年ごろ成立したものと推定される。長崎開港の 1571 年から 60 年余たっている。この間長崎はイエズス会領で綺麗な教会がいくつも建っていたなどの歴史があった。しかしこの間の絵図は未だ見つかっていない。

2．イエズス会は 1549 年にザビエルが鹿児島へきて布教を始めて以来、山口、豊後、平戸が、さらにトードスがきて長崎が布教の中心地になった。ザビエルが来日した時は地図はなく地名から地名へと一次元の線で旅行した。イエズス会は 1540 年の設立当初から、世界各地に会員を派遣し、その布教地の実情や布教の成果について、上長に報告書を送ることを義務づけていた。この膨大な報告書はほぼ文章のみで絵図などは見つかっていない。ヨーロッパ各地の図書館・博物館にも出島以前の絵図がないようである。イエズス会士カルデイムによる日本の絵図があり、彼の著書『日本殉教精華』（1646）に収められている。これはモレイラの原図によるともいわれているが、判らない。

3.　世界図に日本が出てくる初期の代表的な絵図は、メルカトル（1512－1594）による「新アジア図」（1595）で日本は南北に伸びた楕円状の形で描かれている。イエズス会士が報告で日本を島（ilba）と単数で表現したことを色濃く示している。IAPAN　Meaco(みやこ）Mimas da Prata(石見銀山）Amanguco（山口）Toncas(土佐）Bungo（豊後）Cangaxuma（鹿児島）が読みとれる。

４．スペイン、ポルトガルは地図を極秘とし公開しなかった。江戸幕府でも地図は国外持ち出し禁制品であった。16 世紀末ごろオランダの黄金の世紀になり、地図の作成、出版の事業が目覚ましく発展した。最も有名なのはオルテリウスの《世界の舞台 Theatrum orbis terrarum》(1570)で，大航海によってもたらされた新情報を十分に盛り込んだ世界地図帳である。好評でヨーロッパの各国語に翻訳され版を重ねた。まさに〈地図帳の時代〉であった。従来の行き方を破ったこのオランダの自由な考えは現在でも引き継がれているように思う。また現在のグーグルマップの出現と同じく革命的なことと思われる。1595 版に初めて明らかに日本と判る地図が現れる。これはポルトガル人地図作家テイセラが作成した。行基菩薩（668－749）が作ったと言われる最初の日本地図「行基図」の情報を取り入れていると言われているが、地形は格段に情報量の差がある。原図としては、それ以前の絵図として 1443 年通信使として李朝朝鮮から来た申叔舟の日本地図もあるが、未だ見つかっていない。消失した地図があることは確かであろう。

５．　行基図に続く日本の全体像を示した絵図は福井市浄得寺蔵の安土桃山時代の屏風（重要文化財)がある。16 世紀末制作。行基図の一種類．富士山，琵琶湖が描かれ，主要街道は赤線で示されている．長崎、名越（名護屋)、博多、朝鮮への航路である。おそらく全国

地図で「長崎」が現れるのは初めてと思われる！秀吉の朝鮮出兵（1592、1597）に係る絵図で行基図の特色を持つ。

６．　次の日本図は 1715 のレランドの「日本帝国図」で浮世絵師・石川流宣の「日本海山潮陸図」元禄 2 年（1689）の写しで地名の漢字も入っている。この右下隅に長崎の部分図が出ている。これは出島医師として 1690-92 年滞在、2 度の江戸参府に同行したケンペルの描いたものが原図ではと考える。ケンペルは手あたり次第、日本の地図を買いあさり、かつ自分でも手書きの地図を描いていた。葵のご紋、将軍の像、さらに長崎湾の拡大図が描かれている。興味あることはこの地図（海図）は、80 年後になるが、フェートン号が長崎へ来航した際に使っていた海図と同様と判った。

７．　「絵図から見る西欧の朝鮮半島についての認識」についての私見。西欧の絵図に朝鮮半島が描かれたのは日本よりあとで、しかも単に細長い島となっている。この西欧のプアな朝鮮認識は、マルコポーロのジパング神話により触発された西洋の日本への認識と明確に対比できる。大航海時代に入り、地続きの中国から朝鮮半島へ来る細々とした情報に対し、太平洋に面する日本に海から西洋文明が直接流入した（種子島の鉄砲、ザビエル、リーフデ号など)。当時世界の 3 割の生産高と言われる石見からの銀も引力となった。鎖国になっても阿蘭陀との通商を通して西洋文明と継続的に繋がった。出島の存在は非常に大きい。他方朝鮮は 13 世紀末には詳細な国内地図はあったが、中国からの文明の流れに依存し、李氏朝鮮（1392－1910）は外国人を受け入れぬ厳密な鎖国政策をとり Hermit Kingdom(隠者の王国）と言われ、自己の地理情報の流出はなかった。また他国から興味を持たれることもなかった。この差は現代にまで色濃くつながっている。

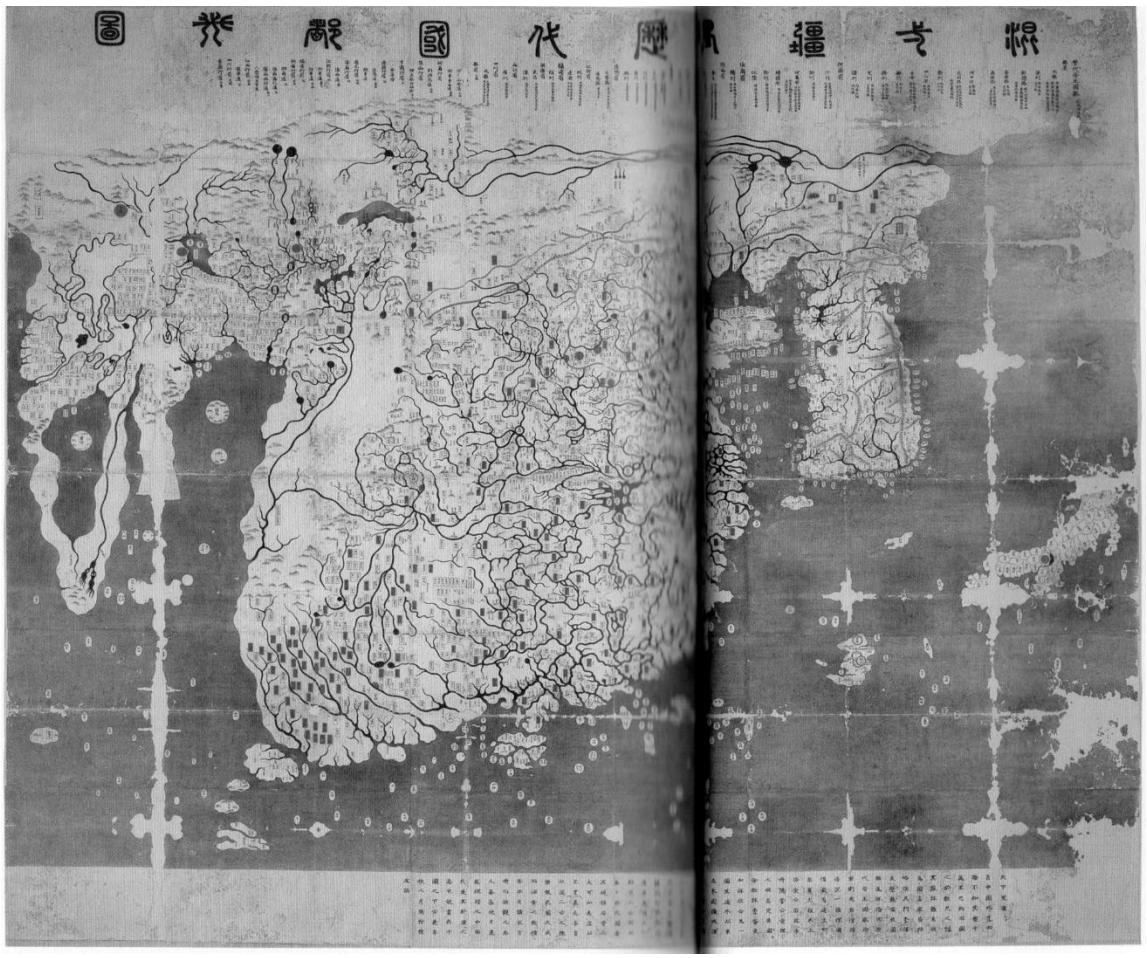
８．　「混一彊理歴代国郡之図」には一驚する。1402 年に李氏朝鮮で作られた地図であるが、龍谷大学と島原本光寺に写しがある。これは世界最古の世界地図と言われる。イスラムの先端科学と中国の先端科学が統合してできたものでモンゴル帝国（元）の世界認識である。アフリカ大陸、ナイル川、アラビア半島、ドイツ、フランス、ロシアなどがでている。ヨーロッパで、アフリカを一つの大陸として描かれるのは、1489 年のディアスの航行以後とされており､80 年以上早いアジア発の世界図である｡大きさは前者が 151cm, 163cm、後者が 220 x 280 ㎝と大きな絵図で膨大な情報量である。李氏朝鮮の権近の跋があり、明の清濬（しゅん）の「混一彊理図」と李沢民の「声教広被図｝が基図で、朝鮮と日本の地図を補足したとある。当時の日本の地理についての認識を示し興味深い。

９．　今まで探し得た「出島が描かれていない長崎の絵図」というと、少し無理な感じはするが、長崎港草（寛政 4 年成立）に記載された絵図がある。神宮寺らしい寺社が描かれている。西道仙は「用筆細密不失真景」と評価している。またオランダの地図出版社 Van der A（London 国立海事博物館蔵）“FIRANDO et NANGESAQUE”には Firando: Hollandje Legie、Nangasacka とあり、出島が出来る前の平戸商館時代の地図である。

10.　見ているだけでドーパミンの出てくる地図。グーグルマップの今では、地図が無かった時代は想像もできない。しかし地図が身近なものになったのは大航海時代以降で人類

にとって過去の一瞬である。新しい絵図はいまでも次々に新しく発見され,ときおり新聞に載る。島原本光寺の「混一彊理歴代国郡之図」（下図、宮紀子氏の著書からコピー）ですら、見つかったのは 1988 年と最近である。これからも新史料が見つかることは大いに期待される。「出島が描かれていない長崎の絵図」の捜索は始まったばかりである。人生は短い！

混一彊理歴代国郡之図（島原本光寺蔵）



主要な参考文献

椎名浩:「島から列島へ―16 世紀中葉のイエズス会士による日本地理把握の変遷についての一考察」熊本学園大学論集（2012）

宮紀子『モンゴルが生んだ世界図』日本経済新聞出版社（2007）

三好唯義、小野田一幸『日本古地図コレクション』河出書房新社（2004）

三好唯義『世界古地図コレクション』（2014）

室賀信夫『古地図抄』東海大学出版会（1983）